

入域観光客統計概況

- 平成12年1月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 1月の入域観光客数は335,800人で前年同月比100.4%（1,400人増）となり、1月の入域観光客数としては過去最高を記録した（これまでの最高記録334,400人／平成11年の1月）。
- 2 空海路別にみると、空路は327,800人で前年同月比100.3%（1,000人増）、海路は8,000人で同105.3%（400人増）となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から126,700人（前年同月比105.0%）、阪神から64,300人（同98.2%）、福岡から47,600人（同104.4%）となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が126,700人（構成比37.7%）、次いで阪神64,300人（同19.1%）、福岡47,600人（同14.2%）、名古屋25,800人（同7.7%）、鹿児島11,500人（同3.4%）、札幌9,400人（同2.8%）、広島8,600人（同2.6%）、仙台4,600人（同1.4%）、熊本4,000人（同1.2%）となった。外国客は9,200人（構成比2.7%）で前年同月比105.7%となった。
- 5 入域観光客増加の主な要因は次のとおりである。
増加の要因
 - (1) 「観光・リゾート沖縄」のブランド化の進展。
 - (2) 低価格旅行商品の流通や航空運賃低減、マスメディアによる沖縄情報発信などの効果が持続していること。
 - (3) 2000年サミットの沖縄開催決定により全国から沖縄に関心が向けられていること。減少の要因
 - (1) 2000年問題による年末年始の旅行控えの影響があったこと。
 - (2) 航空路線の運休による影響があったこと。
JAS秋田・那覇線（前年同月1,300人）

入域観光客統計概況

- 平成12年2月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 2月の入域観光客数は387,400人で前年同月比113.6%（46,300人増）となり、2月の入域観光客数としては過去最高を記録した（これまでの最高記録341,100人／平成11年の2月）。
- 2 空海路別にみると、空路は376,500人で前年同月比113.8%（45,800人増）、海路は10,900人で同104.8%（500人増）となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から144,700人（前年同月比113.7%）、阪神から69,000人（同110.4%）、福岡から54,700人（同119.7%）となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が144,700人（構成比37.4%）、次いで阪神69,000人（同17.8%）、福岡54,700人（同14.1%）、名古屋29,900人（同7.7%）、鹿児島11,100人（同2.9%）、札幌11,100人（同2.9%）、広島7,200人（同1.9%）、仙台5,500人（同1.4%）、熊本5,200人（同1.3%）となった。外国客は19,200人（構成比5.0%）で前年同月比115.0%となった。
- 5 入域観光客増加の主な要因は次のとおりである。
 - (1) 「観光・リゾート沖縄」のブランド化の進展。
 - (2) 低価格旅行商品の流通や航空運賃低減、マスメディアによる沖縄情報発信などの効果が持続していること。
 - (3) 2000年サミットの沖縄開催決定により全国から沖縄に関心が向けられていること。
 - (4) 航空路線開設等による増があったこと。
 - 平成11年4月1日開設のJAS関空・那覇線（2,800人）
 - 平成12年2月1日再開のJAS出雲・那覇線（1,500人）

入域観光客統計概況

- 平成12年3月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 3月の入域観光客数は453,400人で前年同月比104.7%（20,300人増）となり、3月の入域観光客数としては過去最高を記録した（これまでの最高記録4,331,000人／平成11年の3月）。なお、月別の過去最高記録の更新は平成11年1月期より連続更新中であり、15ヶ月連続となっている。
- 2 空海路別にみると、空路は440,200人で前年同月比104.7%（19,900人増）、海路は13,200人で同103.1%（400人増）となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から174,500人（前年同月比105.6%）、阪神から87,600人（同107.6%）、福岡から61,300人（同105.3%）となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が174,500人（構成比38.5%）、次いで阪神87,600人（同19.3%）、福岡61,300人（同13.5%）、名古屋37,000人（同8.2%）、鹿児島14,400人（同3.2%）、札幌12,700人（同2.8%）、広島8,900人（同2.0%）、仙台5,800人（同1.3%）、熊本5,500人（同1.2%）となった。外国客は14,900人（構成比3.3%）で前年同月比101.4%となった。
- 5 入域観光客増加の主な要因と想定される事象
 - (1) 「観光・リゾート沖縄」のブランド化の進展
 - (2) 低価格旅行商品の流通
 - (3) 本土沖縄間の航空運賃低減措置（航空燃料税率引下げ[3/5 1/2]等）
 - (4) マスメディアによる沖縄情報発信
（各種キャリア・エージェントの誘客及び県側の誘客）
 - (5) 2000年サミット沖縄開催決定
 - (6) 航空路線開設及び再開
平成11年4月1日開設のJAS関空・那覇線（3月期搭乗数4,400人）
平成12年2月1日再開のJAS出雲・那覇線（3月期搭乗数1,600人）
（出雲線は季節運行[主に冬・春季]）
 - (7) 沖縄花のカーニバル2000開催
 - (8) 国際ロータリー第2580地区大会開催（県外客4,000人）

入域観光客統計概況

- 平成12年4月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 4月の入域観光客数は347,800人でほぼ前年同月並みとなった。
- 2 空海路別にみると、空路は337,200人で前年同月比0.3%増(900人増)、海路は10,600人で同11.7%(1,400人)となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から138,600人で前年同月比4.9%増(6,500人増)、阪神から67,500人で同6.6%(4,800人)、福岡から47,000人で同7.3%増(3,200人増)となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が138,600人(構成比39.9%)、次いで阪神67,500人(同19.4%)、福岡47,000人(同13.5%)、名古屋28,100人(同8.1%)、鹿児島11,100人(同3.2%)、広島7,400人(同2.1%)、仙台4,700人(同1.4%)となった。外国客は17,000人(構成比4.9%)で前年同月比10.5%と前年同月期を下回った。
- 5 4月の入域観光客数の特徴としては東京、福岡など順調に推移している航路がある一方、空路において阪神・那覇間が平成9、10年の便数体制に戻ったこと(平成11年は関西空港発着枠の拡大に伴う増便体制であった)、札幌・那覇間の従来5月末まで運航している季節便が他路線への振替え(特定路線への移行ではなく全国的な見直し)を受け2ヶ月短縮されたこと、こうした理由により両航路の入域者数が減少し、県全体の入域観光客数がほぼ前年同月並みで推移する状況となっている。

入域観光客統計概況

- 平成12年5月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 5月の入域観光客数は322,900人で前年同月比 1.5% (4,900人)となった。
- 2 空海路別にみると、空路は310,300人で前年同月比 1.4% (4,400人)、海路は12,600人で同 3.8% (500人)となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から121,600人で前年同月比2.8%増 (3,300人増)、阪神から60,800人で同 7.6% (5,000人)、福岡から48,600人で同9.2%増 (4,100人増)、札幌からは運休 (季節便の期間短縮)のため皆減 (4,000人)となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が121,600人 (構成比37.7%)、次いで阪神60,800人 (同18.8%)、福岡48,600人 (同15.1%)、名古屋23,400人 (同7.2%)、鹿児島14,600人 (同4.5%)、広島4,900人 (同1.5%)、仙台4,200人 (同1.3%)となった。外国客は17,900人 (構成比5.5%)で前年同月比9.1%と前年同月期を下回った。
- 5 5月の入域観光客数の特徴としては12年4月期と同様、東京、福岡など順調に推移している航路がある一方、空路において阪神・那覇間が平成9、10年の便数体制に戻ったこと、札幌・那覇間の従来5月末まで運航している季節便が他路線への振替えを受け2ヶ月短縮されたこと、こうした理由等により入域者数が減少し、入域観光客数が前年同月より減少した状況となっている。

入域観光客統計概況

- 平成12年6月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 6月の入域観光客数は337,200人で前年同月比 3.7% (12,800人)となった。
- 2 空海路別にみると、空路は324,900人で前年同月比 3.2% (10,900人)、海路は12,300人で同 13.4% (1,900人)となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から141,200人で前年同月比0.4%増 (600人増)、阪神から62,700人で同 8.6% (5,900人)、福岡から46,300人で同 2.9% (1,400人)、小松路線はJ T Aのストライキの影響を受け、1,300人で同 51.9% (1,400人)となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が141,200人 (構成比41.9%)、次いで阪神62,700人 (同18.6%)、福岡46,300人 (同13.7%)、名古屋23,300人 (同6.9%)、鹿児島11,500人 (同3.4%)、広島5,600人 (同1.7%)、仙台3,800人 (同1.1%)、熊本3,800人 (同1.1%)となった。外国客は22,800人 (構成比6.8%)で前年同月比 7.7%と前年同月期を下回った。
- 5 6月の入域観光客数の特徴としては東京路線が昨年並みとなっているが、空路において阪神・那覇間が平成9、10年の便数体制に戻ったこと、福岡・那覇間の機体が昨年より一部小型機に変更となったこと、小松路線がJ T Aのストライキの影響を受けたこと、こうした理由等により入域者数が減少し、入域観光客数が前年同月より減少した状況となっている。

入域観光客統計概況

- 平成12年7月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 7月の入域観光客数は340,100人で前年同月比 22.8% (100,600人)となった。
- 2 空海路別にみると、空路は324,400人で前年同月比 22.6% (94,500人)、海路は15,700人で同 28.0% (6,100人)となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から148,700人で前年同月比 19.4% (35,900人)、阪神から61,500人で同 28.7% (24,800人)、福岡から41,900人で同 27.9% (16,200人)、名古屋から23,500人で同 28.8% (9,500人)となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が148,700人(構成比43.7%)、次いで阪神61,500人(同18.1%)、福岡41,900人(同12.3%)、名古屋23,500人(同6.9%)、鹿児島13,800人(同4.1%)、広島4,300人(同1.3%)、仙台4,000人(同1.2%)、熊本3,400人(同1.0%)となった。外国客は24,000人(構成比7.1%)で前年同月比 11.8%と前年同月期を下回った。
- 5 7月の入域観光客数の特徴としてはサミットによる減便で提供座席数が減少したこと、警備等による宿泊施設の利用制限や交通規制等を憂慮した旅行者が期間中の旅行を手控えしたこと、空路において阪神・那覇間が平成9、10年の便数体制に戻ったこと、こうした理由等により入域者数が減少し、入域観光客数が前年同月より減少した状況となっている。

入域観光客統計概況

- 平成12年8月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 8月の入域観光客数は496,800人で前年同月比 4.9% (25,800人)となった。
- 2 空海路別にみると、空路は477,600人で前年同月比 4.4% (21,900人)、海路は19,200人で同 16.9% (3,900人)となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から200,900人で前年同月比 0.8% (1,700人)、阪神から104,000人で同 7.6% (8,600人)、福岡から63,300人で同 9.3% (6,500人)、名古屋から42,800人で同 2.5% (1,100人)となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が200,900人(構成比40.4%)、次いで阪神104,000人(同20.9%)、福岡63,300人(同12.7%)、名古屋42,800人(同8.6%)、鹿児島 20,100人(同4.0%)、広島 7,800人(同1.6%)、熊本 5,800人(同1.2%)、小松4,700人(同0.9%)、仙台4,600人(同0.9%)となった。外国客は22,900人(構成比4.6%)で前年同月比 8.0%と前年同月期を下回った。
- 5 8月の入域観光客数の特徴としては、上旬の大雨や歴代3位を記録した4個の台風襲来といった悪天候により、過去唯一、月間入域者数が50万人を超えた昨年同月にわずかに及ばなかったが、空路の提供座席数の減少数と同比率で旅客数が減少していることから、本県に対する8月の観光客の嗜好は昨年同様に高水準で推移しており、依然として「沖縄の夏」が高い誘客効果を有していることがうかがえる。

入域観光客統計概況

- 平成12年9月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 9月の入域観光客数は392,900人で前年同月比5.2%増(19,400人増)で、6ヶ月ぶりに対前年同月比で増加、及び月間の過去最高記録を更新した。
- 2 空海路別にみると、空路は383,300人で前年同月比7.3%増(26,100人)、海路は9,600人で同 41.1%(6,700人)となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から180,000人で前年同月比7.1%増(11,900人増)、阪神から68,900人で同 1.3%(900人)、福岡から53,300人で同9.0%増(4,400人増)、名古屋から26,200人で同5.6%増(1,400人増)となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が180,000人(構成比45.8%)、次いで阪神68,900人(同17.5%)、福岡53,300人(同13.6%)、名古屋26,200人(同6.7%)、鹿児島15,100人(同3.8%)、広島7,100人(同1.8%)、仙台4,600人(同1.2%)、熊本4,400人(同1.1%)、小松3,600人(同0.9%)となった。外国客は15,100人(構成比3.8%)で前年同月比 21.8%と前年同月期を下回った。
- 5 9月の入域観光客数の特徴としては、依然として阪神 - 那覇間の空路や外国海路の落ち込みが見られるものの、その他の航路が好調に推移したため、全体として6ヶ月ぶりに対前年同月比の増加及び月間の過去最高記録を更新することとなった。

入域観光客統計概況

- 平成12年10月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 10月の入域観光客数は376,300人で前年同月比0.7%増(2,800人増)で、2ヶ月連続対前年同月比で増加、及び月間の過去最高記録を更新した。
- 2 空海路別にみると、空路は368,900人で前年同月比2.2%増(7,800人増)、海路は7,400人で同 40.3%(5,000人)となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から160,300人で前年同月比3.8%増(5,900人増)、阪神から62,900人で同 8.4%(5,800人)、福岡から51,600人で同3.0%増(1,500人増)、名古屋から26,900人で同8.9%増(2,200人増)となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が160,300人(構成比42.6%)、次いで阪神62,900人(同16.7%)、福岡51,600人(同13.7%)、名古屋26,900人(同7.1%)、鹿児島13,500人(同3.6%)、札幌6,900人(同1.8%)、広島6,300人(同1.7%)、仙台5,000人(同1.3%)、熊本4,900人(同1.3%)、小松3,700人(同1.0%)、大分2,200人(同0.6%)、高松2,000人(同0.5%)となった。外国客は13,200人(構成比3.5%)で前年同月比 15.9%と前年同月期を下回った。
- 5 10月の入域観光客数の特徴としては、依然として阪神 - 那覇間の空路や外国海路の落ち込みが見られるものの、その他の航路が比較的好調に推移したため、全体として先月に続き、対前年同月比の増加及び月間の過去最高記録を更新することとなった。

入域観光客統計概況

- 平成12年11月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 11月の入域観光客数は374,900人で前年同月比0.8%増(3,000人増)で、3ヶ月連続対前年同月比で増加、及び月間の過去最高記録を更新した。
- 2 空海路別にみると、空路は369,200人で前年同月比2.6%増(9,500人増)、海路は5,700人で同 53.3%(6,500人)となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から146,100人で前年同月比2.7%増(3,800人増)、阪神から60,600人で同 7.8%(5,100人)、福岡から58,100人で同11.3%増(5,900人増)、名古屋から28,000人で同5.7%増(1,500人増)となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が146,100人(構成比39.0%)、次いで阪神60,600人(同16.2%)、福岡58,100人(同15.5%)、名古屋28,000人(同7.5%)、鹿児島13,700人(同3.7%)、札幌10,200人(同2.7%)、広島8,000人(同2.1%)、仙台6,500人(同1.7%)、熊本4,300人(同1.1%)、小松3,300人(同0.9%)、大分2,400人(同0.6%)、長崎2,000人(同0.5%)となった。外国客は10,300人(構成比2.7%)で前年同月比 39.4%と前年同月期を下回った。
- 5 11月の入域観光客数の特徴としては、依然として阪神 - 那覇間の空路や外国海路の落ち込みが見られるものの、福岡や札幌など、その他の航路が対前年同月比で10%を超える好調な推移となったため、全体として先月に続き、対前年同月比の増加及び月間の過去最高記録を更新することとなった。

入域観光客統計概況

- 平成12年12月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 12月の入域観光客数は355,700人で前年同月比4.1%増(13,900人増)で、4ヶ月連続で対前年同月比が増加、及び月間の過去最高記録を更新した。
- 2 空海路別にみると、空路は347,700人で前年同月比5.2%増(17,300人増)、海路は8,000人で同 29.8%(3,400人)となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から136,200人で前年同月比10.6%増(13,100人増)、阪神から64,500人で同 1.2%(800人)、福岡から 49,900人で同0.8%増(400人増)、名古屋から31,700人で同6.4%増(1,900人増)となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が136,200人(構成比38.3%)、次いで阪神64,500人(同18.1%)、福岡49,900人(同14.0%)、名古屋31,700人(同8.9%)、鹿児島11,200人(同3.1%)、広島8,400人(同2.4%)、札幌8,300人(同2.3%)、仙台6,000人(同1.7%)、熊本4,700人(同1.3%)、新潟3,600人(同1.0%)、岡山2,700人(同0.8%)となった。外国客は11,200人(構成比3.1%)で前年同月比 27.3%と前年同月期を下回った。
- 5 12月の入域観光客数の特徴としては、就航船舶が若干小型へと変更されたことに伴う外国海路の落ち込みは依然として見られる一方、阪神 - 那覇間の空路で続いてきた落ち込みがやや落ち着いた感があり、また、東京や札幌など、その他の航路が対前年同月比で10%を超える好調な推移となったため、全体として4ヶ月連続となる対前年同月比の増加及び月間の過去最高記録を更新することとなった。